

教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

学 部

畿央大学では「徳をのぼす」「知をみがく」「美をつくる」を教育の基本理念に置き、高潔な人格と幅広く高度な専門的知識・技術を身につけ、以て地域社会及び国際社会に貢献できる有為な人材を育成するために必要な授業科目を精選し、体系的に学修できるように編成している。教育課程編成の方針は以下のとおりである。

1. 4年間で8セメスターに分け、セメスターごとに評価をすることで、体系的に修得させる。
2. 教育課程を大きく教養科目群と専門科目群に分ける。
3. 教養教育において生命の尊さやその在り方について基本的な認識と価値意識を培うため、「生命倫理」を全学必修科目とする。
4. 専門科目群は「専門基礎科目」「専門科目」からなり、それぞれの学科の人材養成の目的を達成できるよう体系的に科目を配置する。
5. 専門科目群の理解を深め実践力を養うため、実験・実習・演習を重視し数多く配置する。
6. 理論と実践の一体的理解を図るため、学外実習・インターンシップ・ボランティア活動を充実させる。
7. 長期休暇を利用し、フィールドワークや集中講義を実施する。

大学院

畿央大学大学院健康科学研究科および教育学研究科は教育上の目的を達成するため、必要な授業科目を開設するとともに研究指導計画を策定し、体系的な教育課程を編成する。教育課程編成にあたって、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する基礎的素養を涵養し、博士後期課程においては当該分野の学問の発展に寄与する研究を推進するよう配慮する。これらの教育課程を通じて、基準を満たす修士論文もしくは博士論文を完成させる。

専攻科

助産学専攻科は、本学の「徳をのぼす」「知をみがく」「美をつくる」の建学の精神を基盤に、高度な専門知識や、助産ケアを提供するための技術を身につけ、生命誕生の瞬間に立ちあえる喜びと誇りをもち、人として美しく調和が取れる助産師を育成するために、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成する。

1. 助産学基礎領域では、女性のライフサイクルや乳幼児の成長発達に必要な支援、助産学研究など助産師としての基礎知識を学び、助産師としてのアイデンティティについて考察する。
2. 助産学実践領域では、助産師に必要な診断とケアの実践能力を身につける。
3. 助産学関連領域では、健康科学の関連領域から食育、住環境、脳機能の観点で助産に役立つ知識を学び、医療職種間の連携についても知識を深める。